

第3章 地域の現状と課題

3-1 地域の概況

(1) 宗谷管内の地形・地勢

宗谷総合振興局管内は、北海道の北部にあり、利尻島・礼文島を含めた1市8町1村からなります。西は日本海、東はオホーツク海に面し、北は宗谷海峡を経てサハリンを望みます。南は天塩川により留萌管内と、宗谷丘陵・北見山地を境に上川管内と、南東は管内最北端の宗谷岬からオホーツク海沿岸を130km南下したところでオホーツク管内に接します。

広さは東西148km、南北100kmにおよび、面積4,625.70km²は北海道総面積の約5.5%を占め、京都府(4,612.20km²)にほぼ匹敵します。

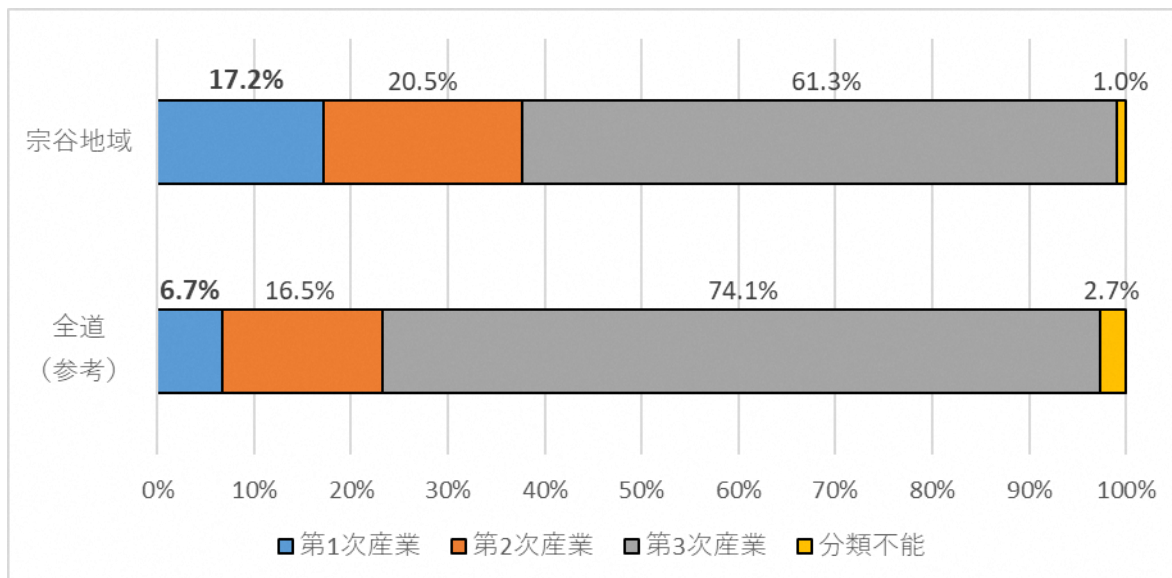
管内北部は、宗谷丘陵を中央に、西部には広大なサロベツ原野、東部にはクッチャロ湖を有する頓別平野が広がります。管内南部は山岳地が広く分布し、河川周辺のみで形成される平坦地がオホーツク海まで続いています。また、利尻島は利尻山(海拔1,721m)を中心としたほぼ円形の島で、礼文島は南北に細長い丘陵状の島です。



図3-1 宗谷管内図

(2) 産業構造

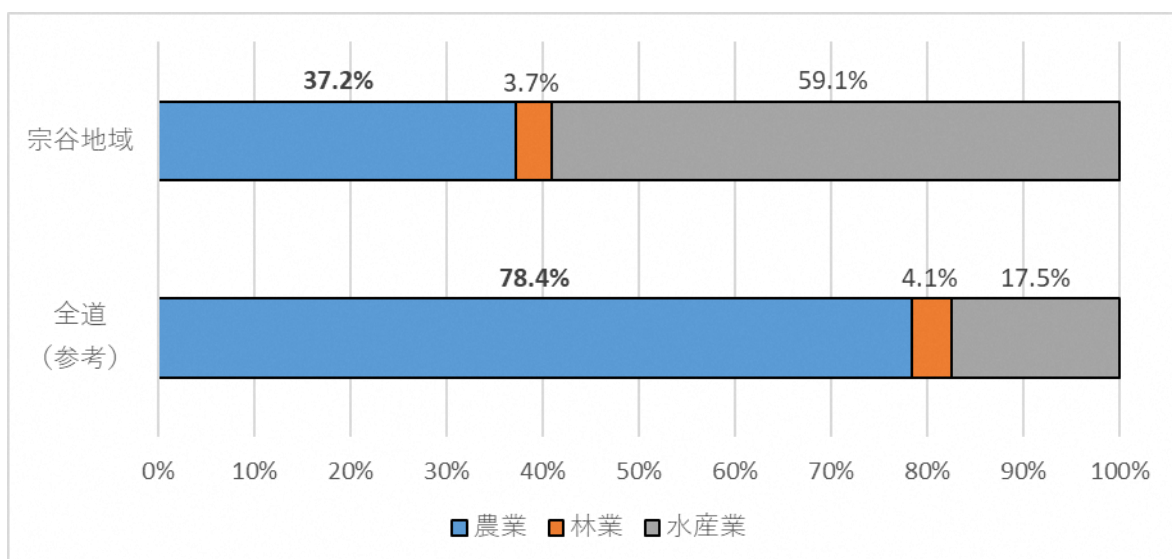
本地域では北海道全体と比較し、第1次産業（農林水産業）の従事者が多く、第1次産業の中でも農業、水産業が基幹産業となっています。



(出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」

(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>) をもとに作成)

図3-2 産業別就業者数



出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」

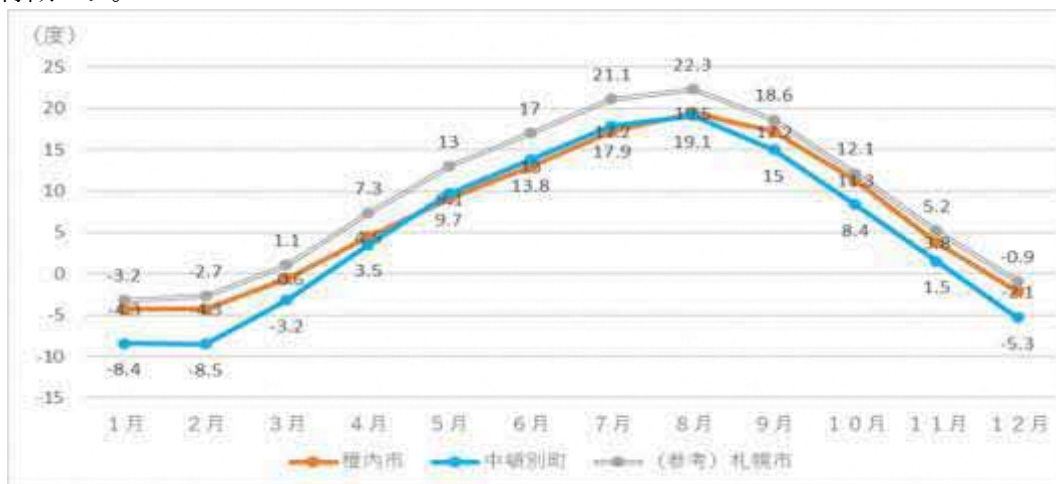
(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>) をもとに作成)

図3-3 第1次産業従事者数の内訳

(3) 気候・気温

本地域の気候は、日本海、オホーツク海に面する海洋性の気候と、山岳地帯及び河川地域の内陸気候に大別することができます。北海道の太平洋側等の地域に比べると夏期間の降水量は約 200～300mm と一般的に少ないですが、地形の影響等により短時間に雨量が多くなる地域もあります。

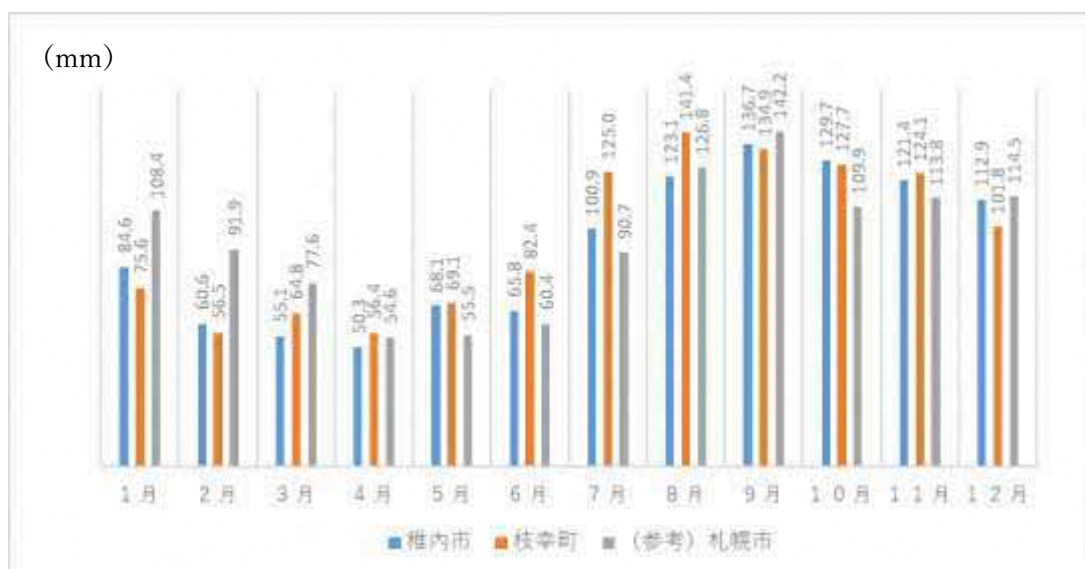
本地域は札幌市に比べ、1～3月は降水量が少なく、5月～7月は多くなっているのが特徴です。



(出典：国土交通省気象庁「過去の気象データ」

(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>) をもとに作成)

図 3-4 平均気温 (過去 30 年間 (1991-2020 年) 平均)



(出典：国土交通省気象庁「過去の気象データ」

(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>) をもとに作成)

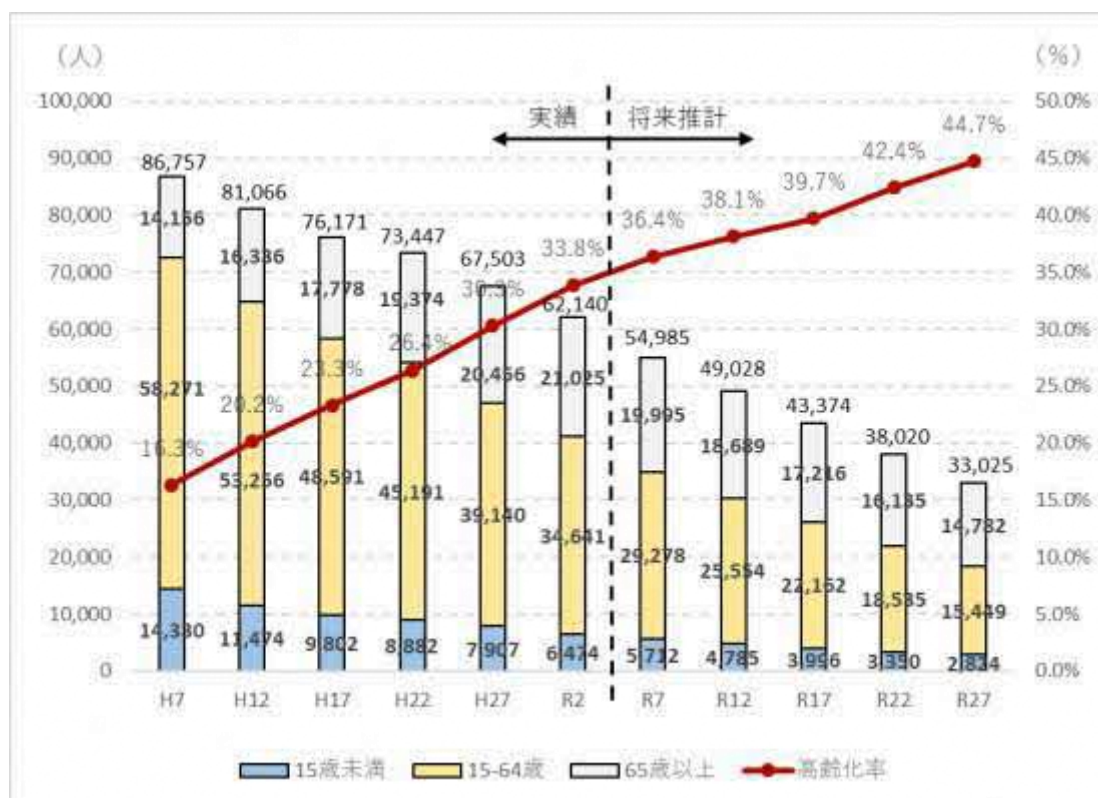
図 3-5 平均月間降水量 (過去 30 年間 (1991-2020 年) 平均)

3-2 地域の現状

(1) 人口・高齢化の推移

本地域の総人口（令和2（2020）年時点）は62,140人であり、平成22（2010）年と比較すると、減少率は15.4%となっており、今後もこうした傾向は続く予測されています。

また、少子化や進学・就職を契機とした若年層の都市部への流出などに伴い、高齢化率は年々上昇し、令和2（2020）年時点で33.8%となっており、令和27（2045）年には44.7%まで上昇すると予測されています。



(出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」

(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>)

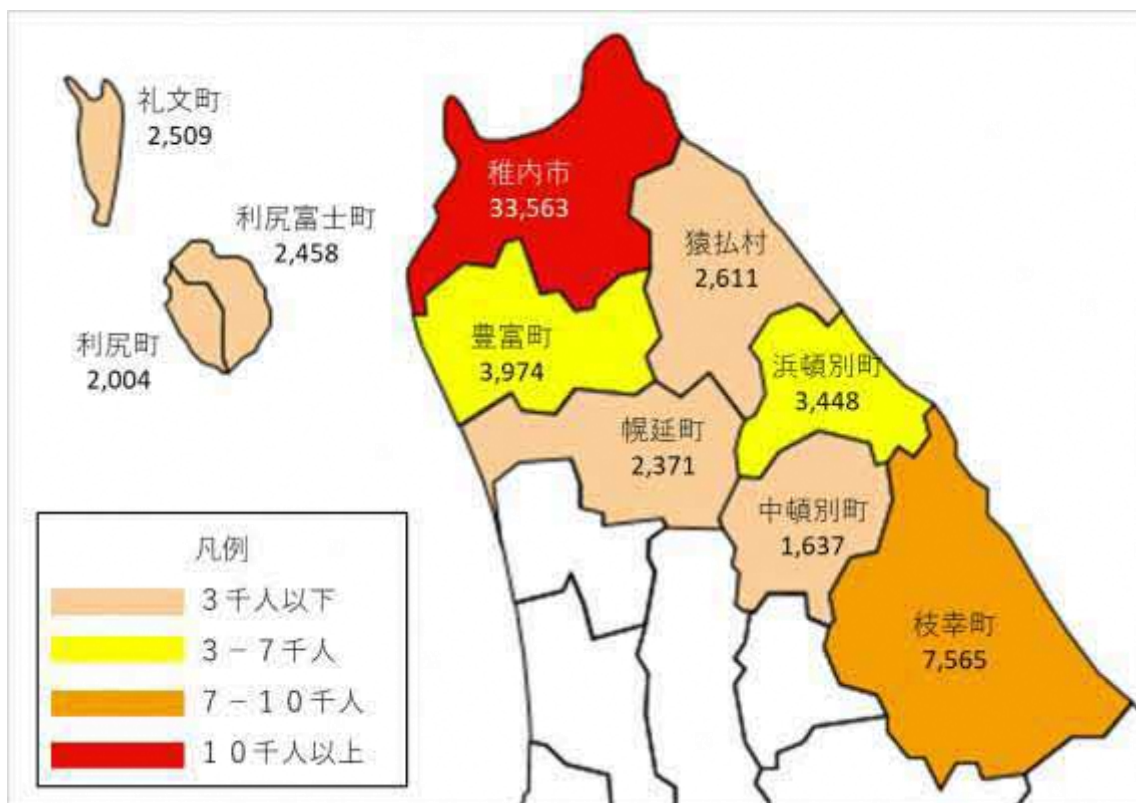
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

(<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>) をもとに作成)

図3-6 宗谷地域全体の人口推移

(2) 人口の分布

本地域の総人口 62,140 人（令和 2（2020）年）のうち、地域中心都市である稚内市に 33,563 人と半数以上が集中し、南東部に位置する枝幸町が 7,565 人、残りの 8 町村は、4,000 人以下となっています。

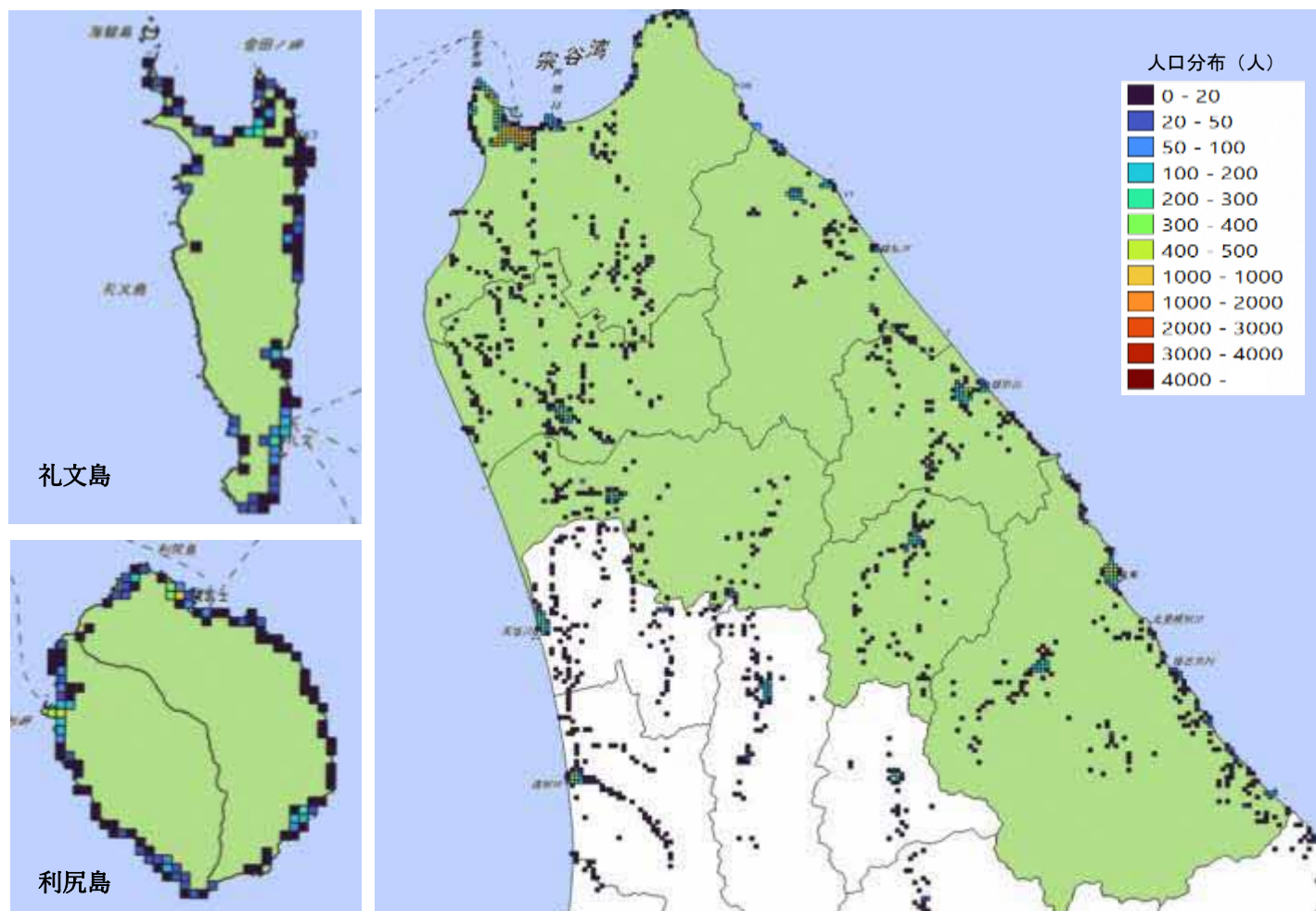


(出典：総務省統計局「令和 2 年国勢調査」

(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>) をもとに作成)

図 3-7 市町村毎の人口（令和 2 年（2020 年））

500m メッシュ毎の人口分布をみると、生活利便施設が集積する各市町村の市街地に人口が集積しており、市街地以外においても広範囲にわたり住民が散居しています。

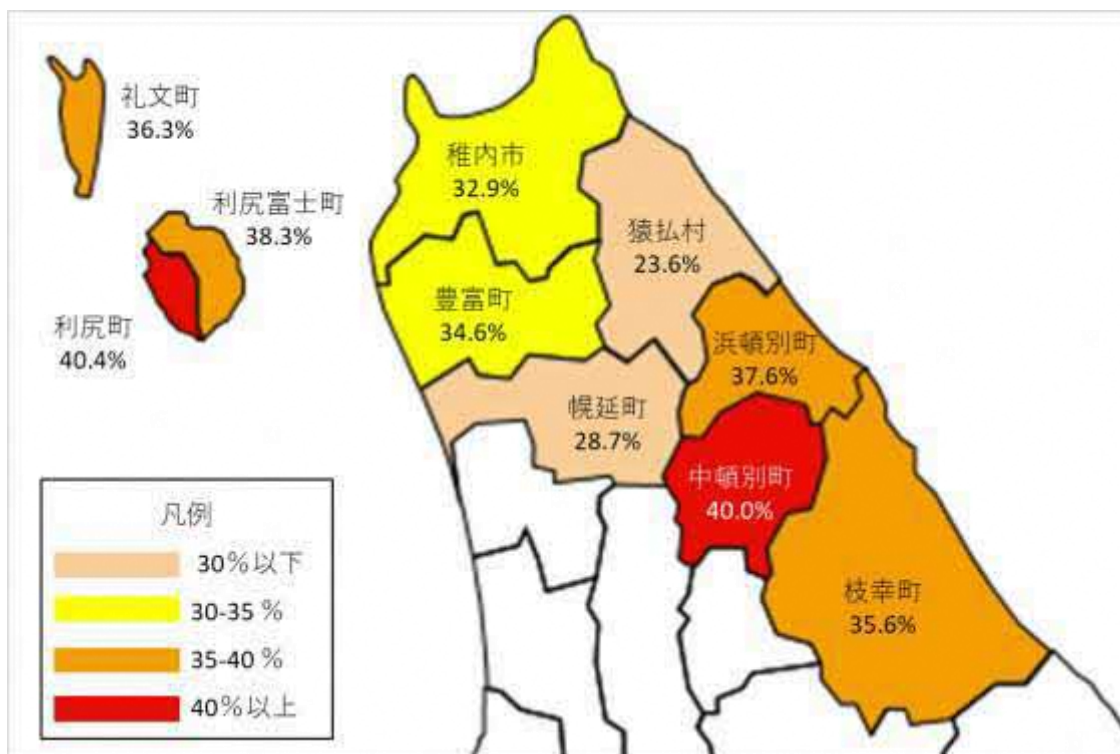


(出典：国土交通省 「国土数値情報 500mメッシュ別将来推計人口データ (H30 国政局推計)」 (<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>) をもとに作成)

図 3-8 本地域の人口分布 (平成 27 年 (2015 年))

(3) 高齢者人口の分布

管内市町村の高齢化率（65歳以上人口の割合）は、33.8%（令和2年（2020年））と全道平均(32.2%)を上回っており、合計特殊出生率が比較的高いと言われる猿払村や幌延町でも21%を超えるなど、本地域の全市町村が超高齢化社会の基準（高齢化率21%超）に達しています。



(出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」

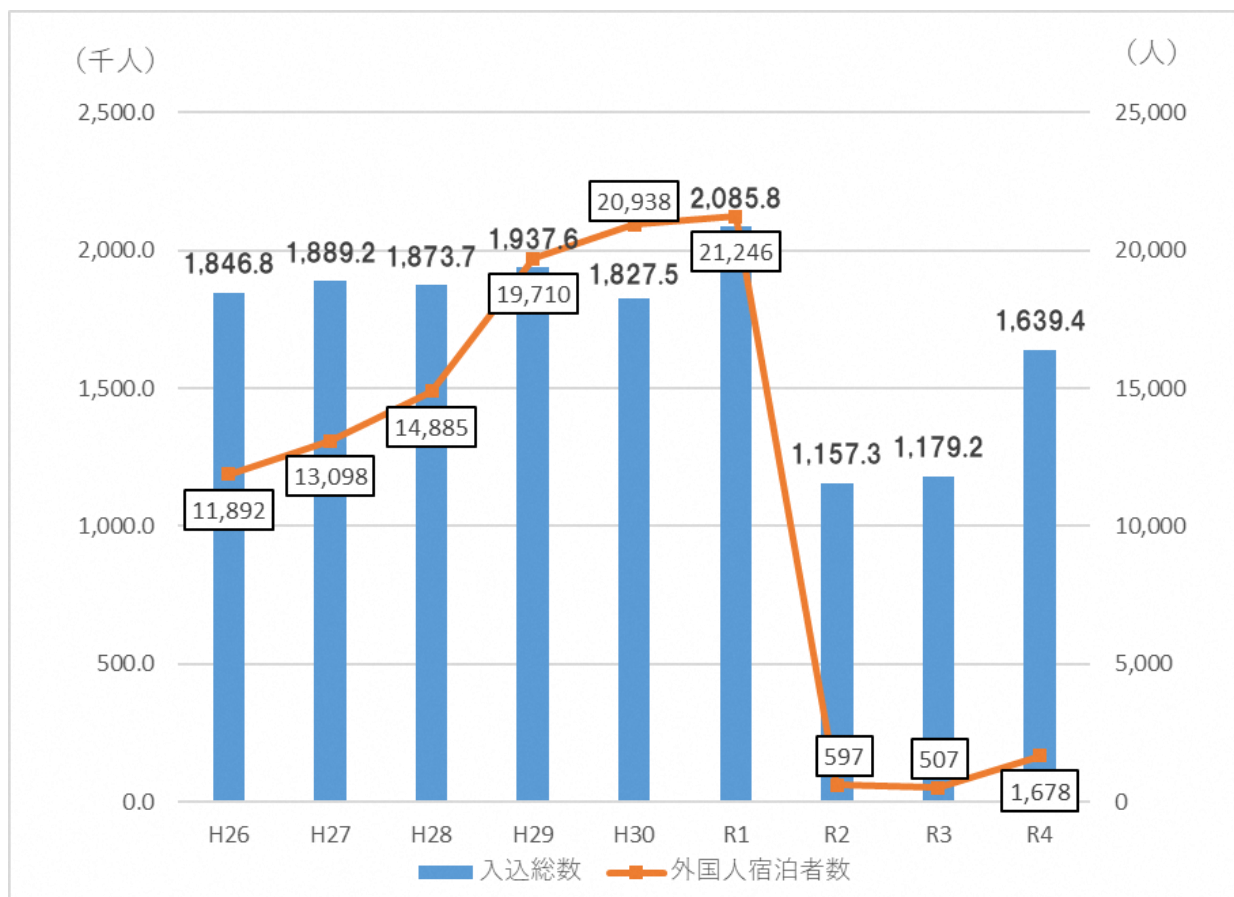
(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>) をもとに作成)

図3-9 市町村毎の高齢化率（令和2年（2020年））

(4) 観光の動向

本地域の観光入込客数は、平成14年度(2002年度)の約300万人をピークに逡減し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前は年間180万~200万人程度で推移していました。令和2年度(2020年度)以降、コロナ禍の行動制限で入込客数は大きく減少しましたが、令和4(2022)年度には、164万人(コロナ禍前の約8割の水準)まで回復しました。

外国人宿泊客数も令和元年度(2019年度)まで増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症に係る入国制限措置などにより、極めて大きな影響を受け、令和4年度(2022年度)においても、1,678人とコロナ禍前の約1割の水準となっており、今後のインバウンドの回復に期待が寄せられています。



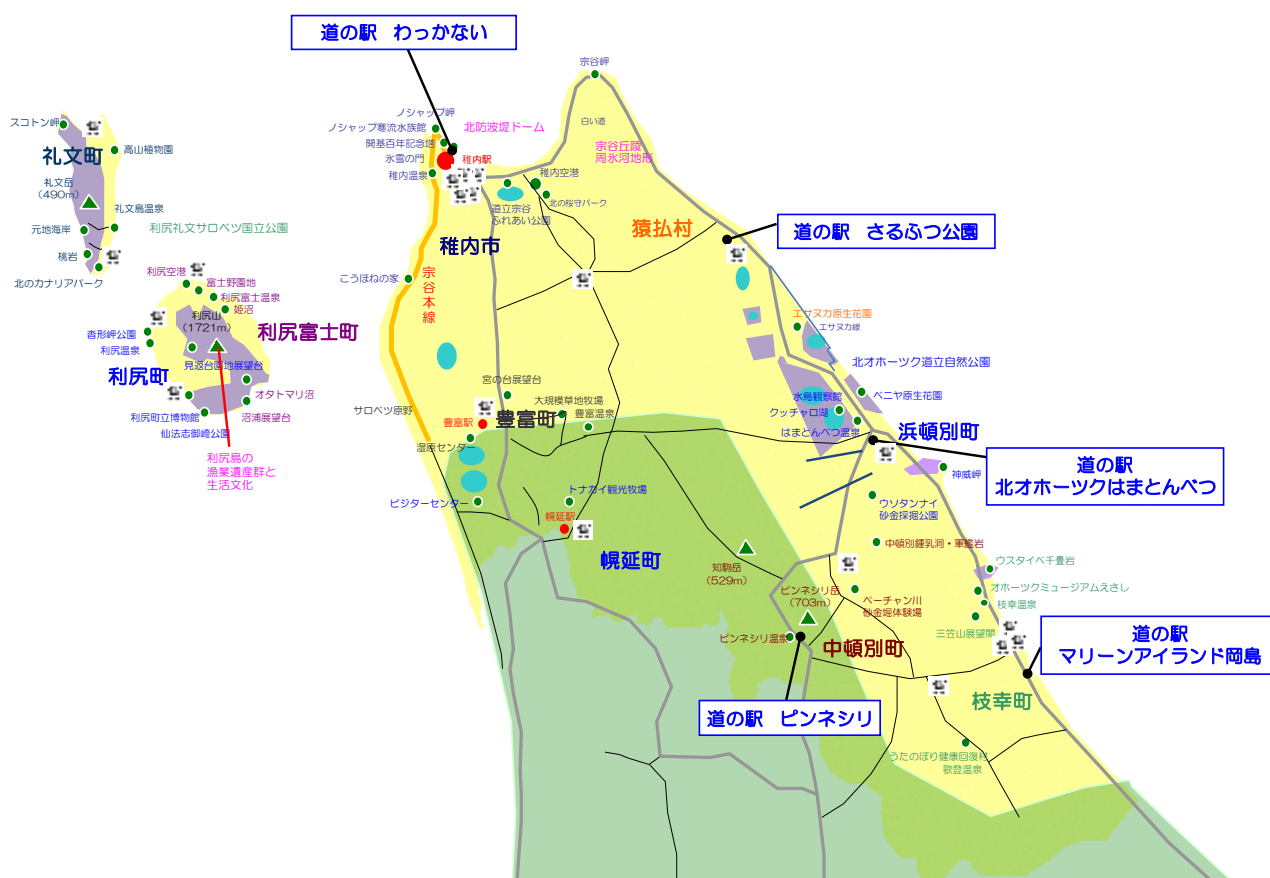
(出典：北海道経済部観光局観光振興課「北海道観光入込客数調査報告書」

(<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.html>) をもとに作成)

図3-10 観光入込客数・外国人宿泊者数の推移

本地域の観光資源は、「利尻礼文サロベツ国立公園」や「ラムサール条約登録湿地」（サロベツ原野、クッチャロ湖）などの雄大な自然をはじめ、北海道本島最北の地「宗谷岬」や全長約16kmにも及ぶ直線である「エサスカ線」などがあります。これらの観光資源の多くは各市町村の市街地から外れた場所にあるため、公共交通機関で赴くことが難しく、移動に多くの時間を要します。

また、観光施設として、稚内市、猿払村、浜頓別町、中頓別町、枝幸町には道の駅があり、管内の長距離移動の際の休憩場所となっています。その他、稚内市の開基百年記念塔や幌延町のトナカイ観光牧場などの観光施設があります。



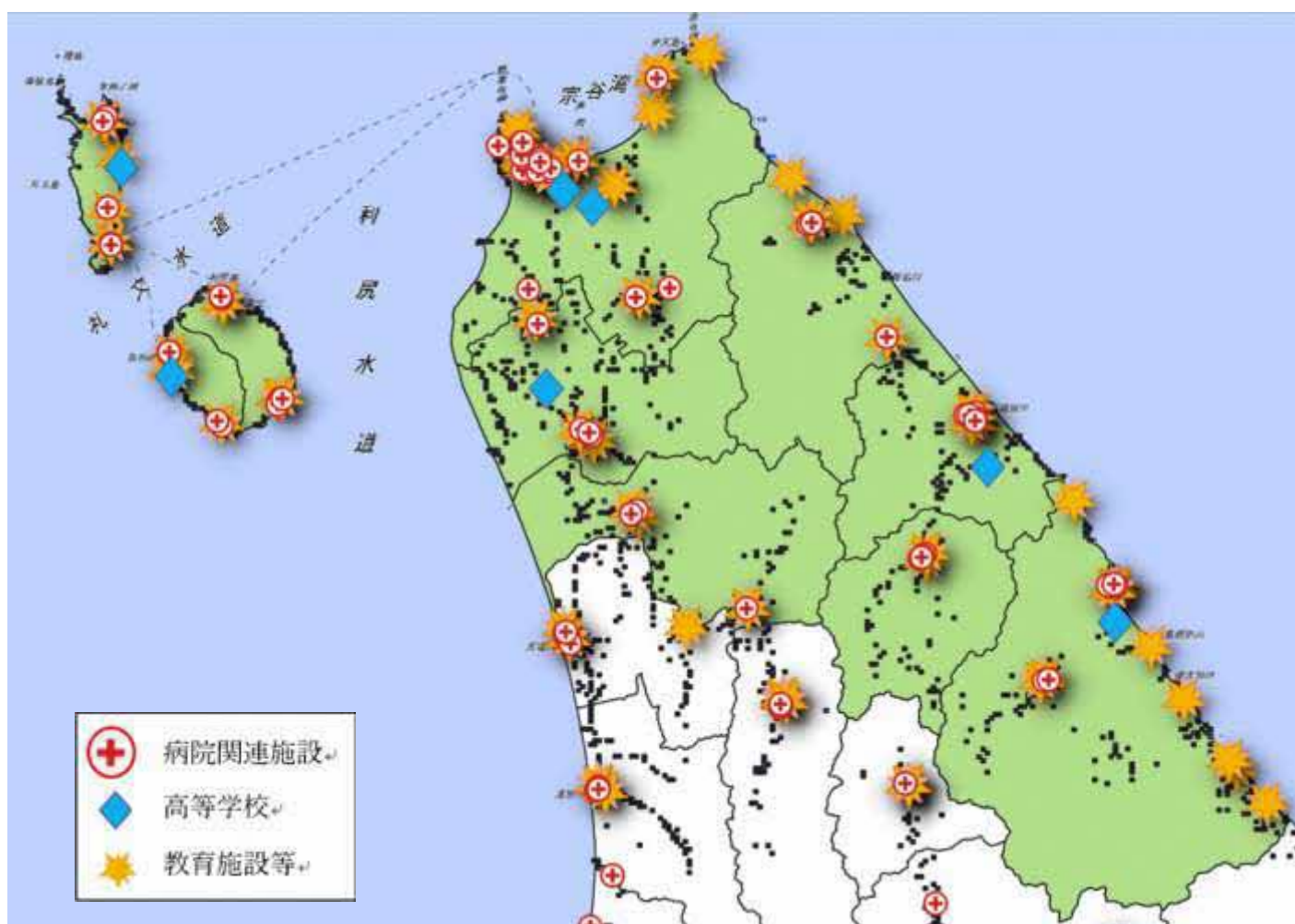
(出典：宗谷総合振興局商工労働課「令和5年度（2023年度）管内概要（観光）」資料をもとに作成)

図3-11 宗谷地域の観光資源及び商業施設

(5) 医療機関及び教育施設等の状況

本地域の医療機関（総合病院、診療所、クリニック、歯科）は、大部分が各市町村の市街地に集積しています。市街地以外においても広範囲にわたり住民が散居している当管内では、自家用車や公共交通機関を利用して通院している住民もいます。

本地域の教育施設等（幼稚園、小学校、中学校）は、大部分が各市町村の市街地に集積しています。高等学校は、稚内市に2校、浜頓別町に1校、枝幸町に1校、豊富町、礼文町、利尻町に1校と合計7校となっており、猿払村、中頓別町及び幌延町に居住している高校生は稚内市、浜頓別町や豊富町等の高校に通学しています。

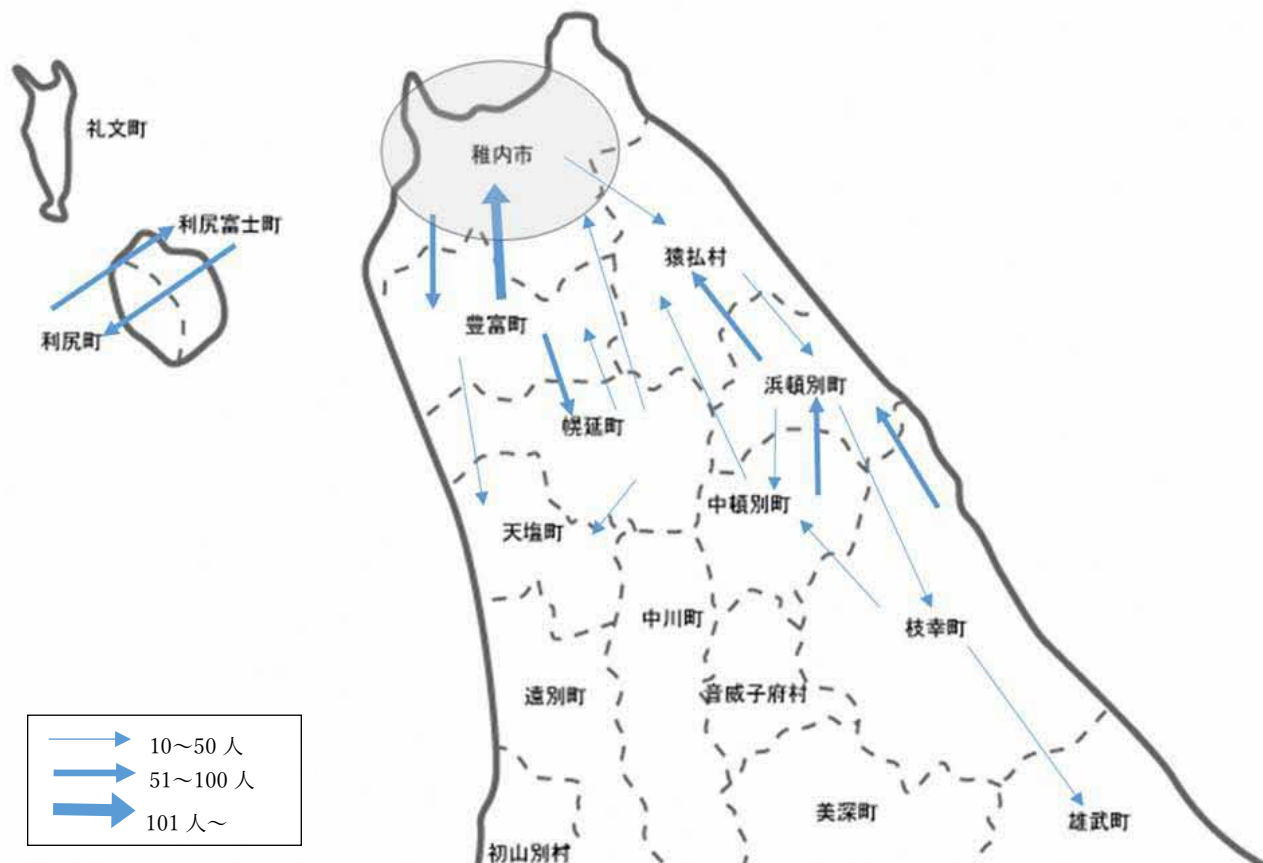


(出典：国土数値情報 医療機関及び教育施設(国土交通省)(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>)
等をもとに作成)

図3-12 宗谷地域の医療機関及び教育施設等の分布図(令和3年(2021年))

①通勤・通学の移動実態

本地域においては、企業や高校が集積している稚内市への移動が多くなっています。また、水産加工業の盛んな猿払村や浜頓別町に周辺市町村から通勤している人も多くいます。



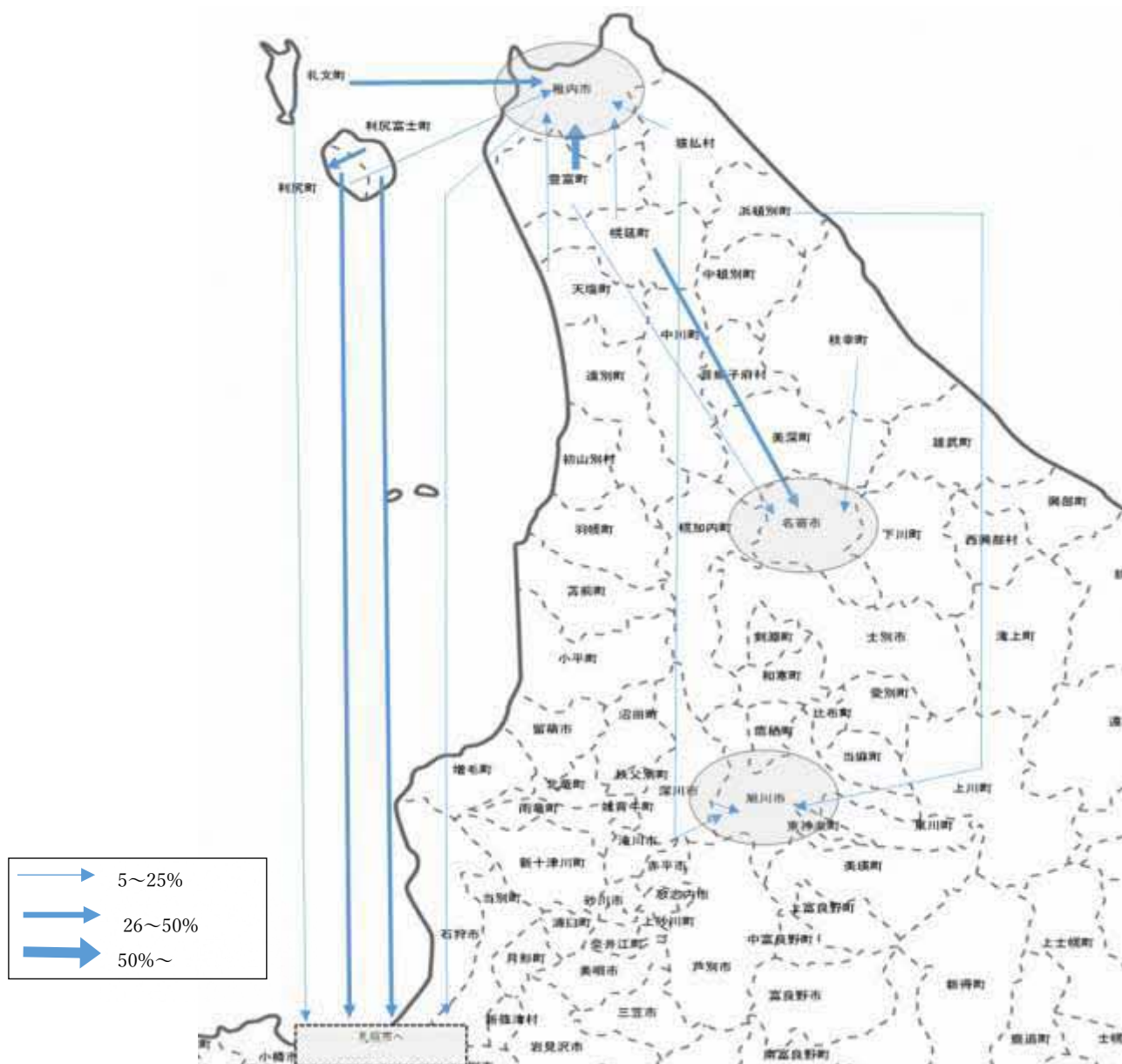
(出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」)

(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>) をもとに作成)

図 3-13 通勤・通学の移動実態 (令和2年(2020年))

②医療機関受療に伴う移動実態

本地域においては、様々な診療科のある稚内市への通院が多くなっています。また、枝幸町や幌延町は、名寄市への通院が多くなっています。離島においては、稚内市への通院のほか、航空路を利用した札幌への通院といった現状もあります。



(出典：北海道総合保健医療協議会地域医療専門委員会資料（北海道保健福祉部）

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/cis/iryokeikaku/>等をもとに作成

図 3-14 医療機関の受領に伴う移動図（令和 3 年（2021 年））

3-3 地域の公共交通の現状

(1) 本地域の公共交通

本地域では、鉄道、航空機、都市間バス、路線バスが運行されているほか、礼文島及び利尻島と本土を結ぶフェリーも運航されています。

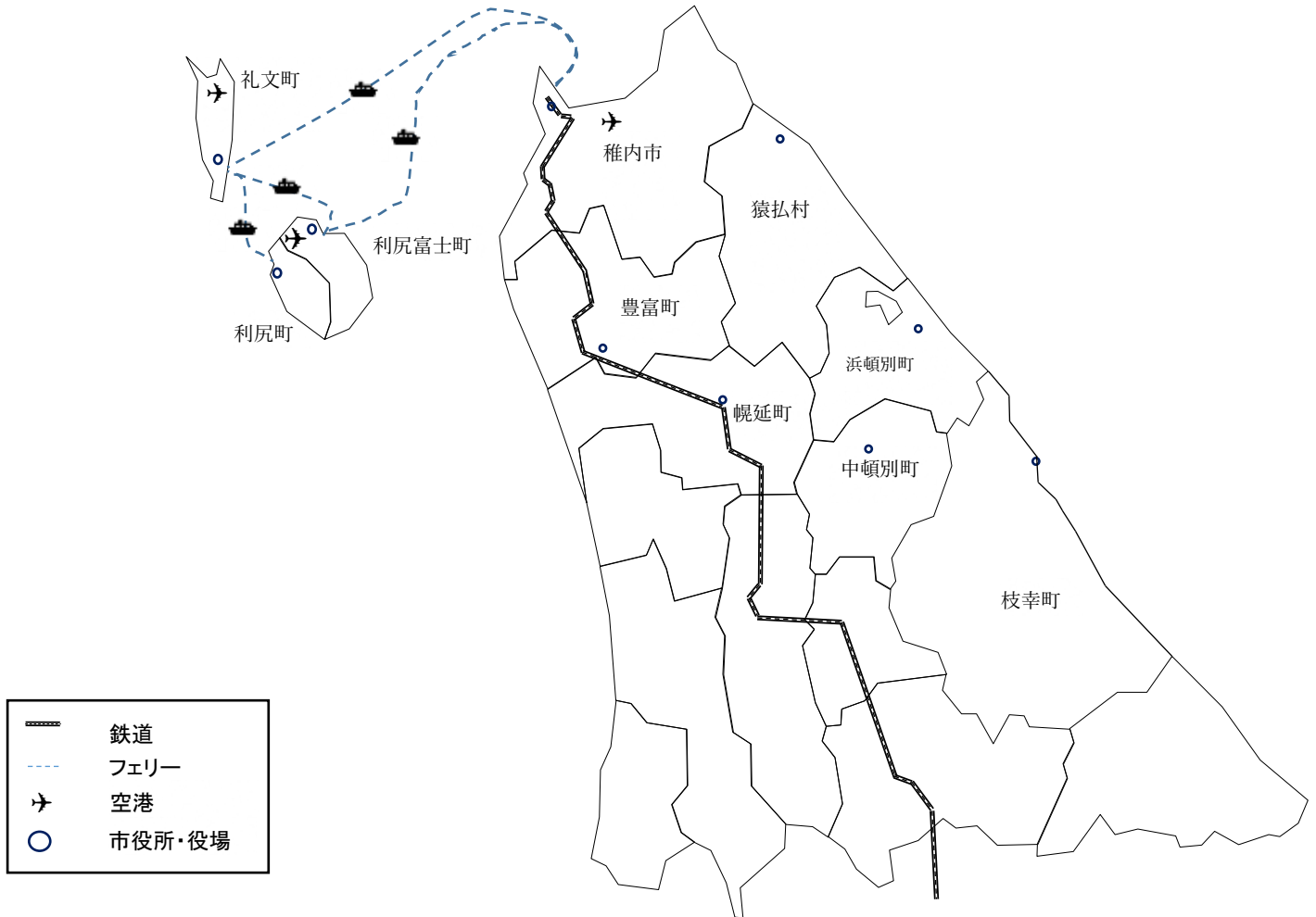


図 3-15 本地域の鉄道、空港及び離島航路の位置

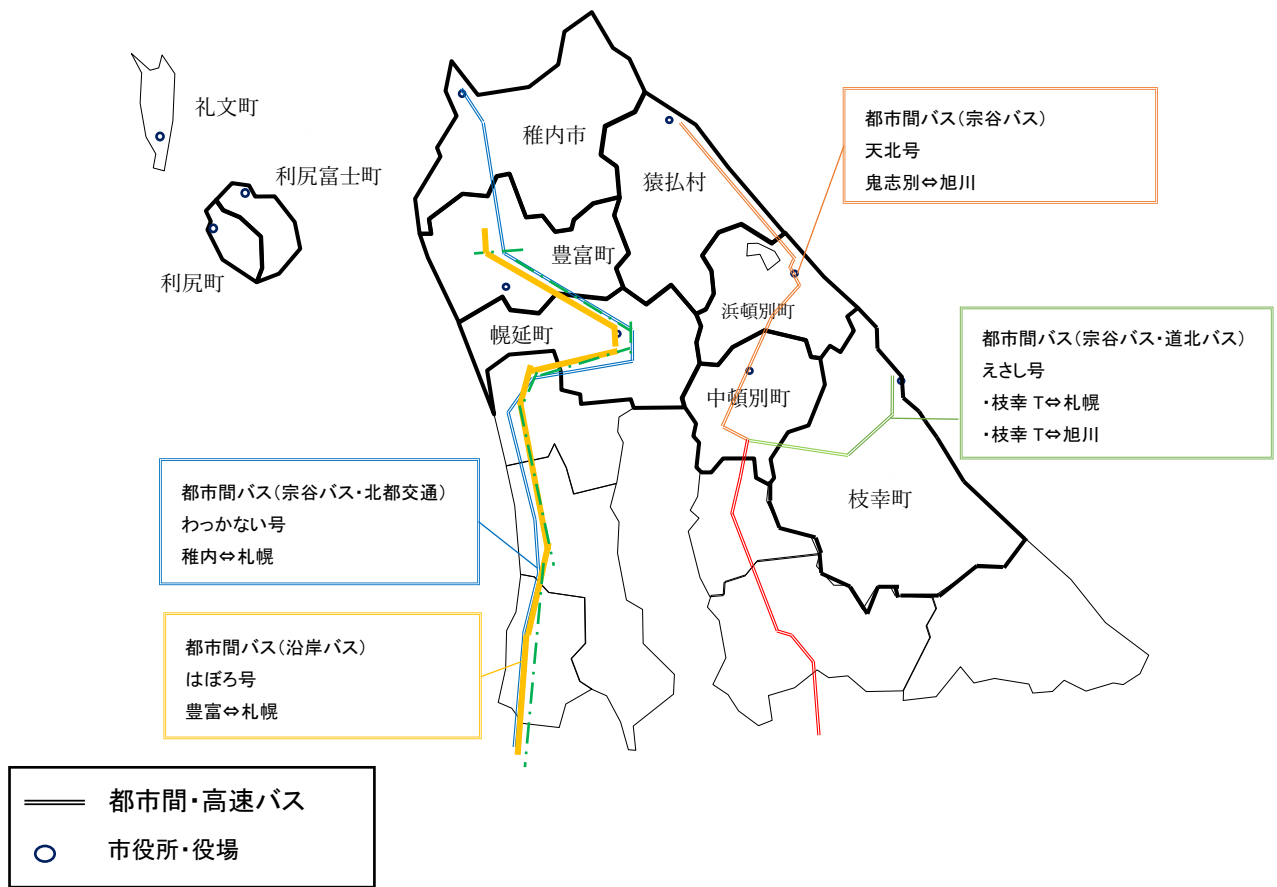


図 3-16 本地域の都市間バス

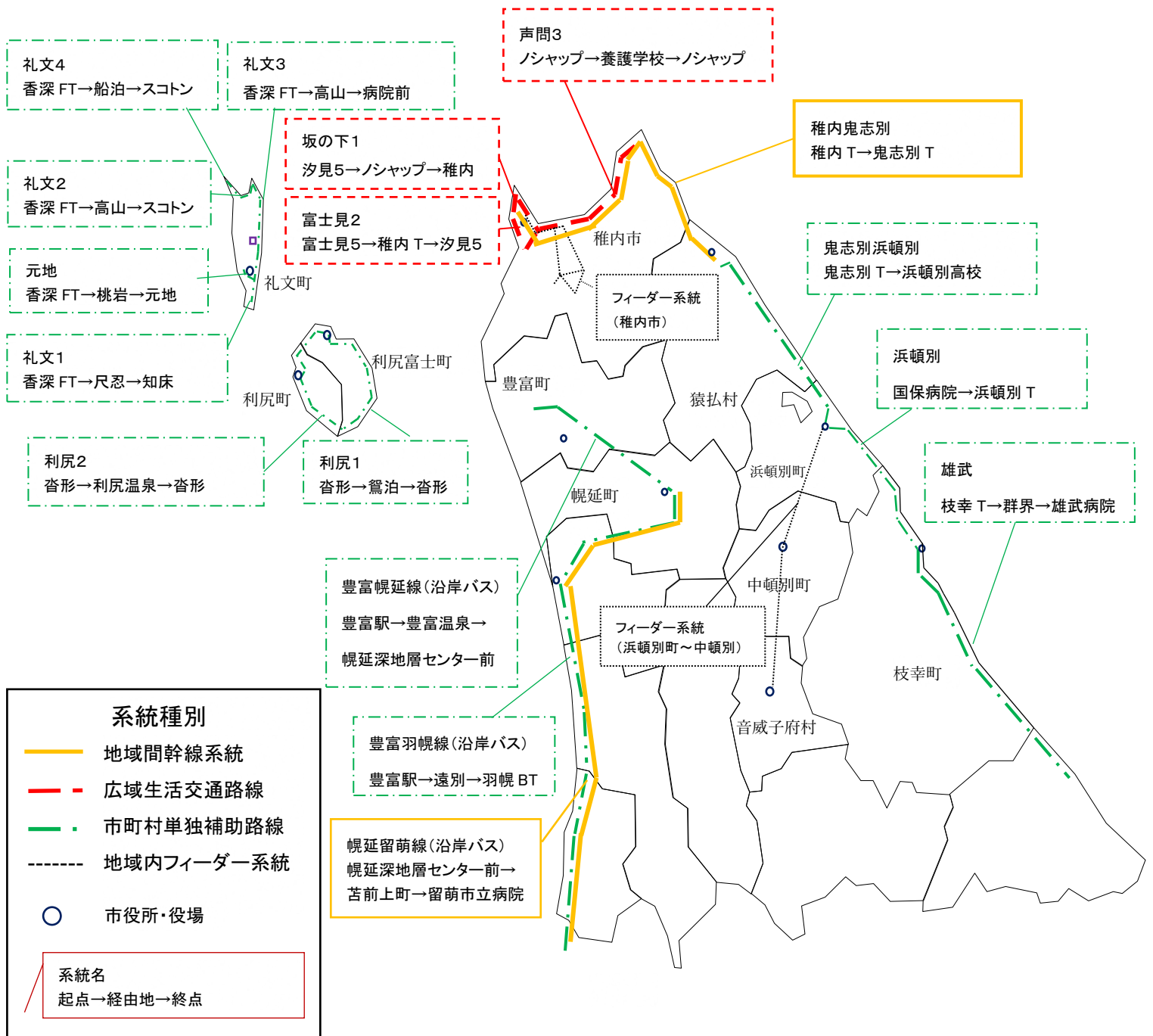


図 3-17 本地域の路線バス

※「浜頓別～中頓別～音威子府間」はデマンドバス

※ 地域間幹線系統とは、中心市町村とその周辺市町村を結ぶ地域間幹線系統確保維持費補助金（国と道による補助）の対象となるバス路線、広域生活路線とは地域間幹線系統としての要件を満たさないが、複数市町村を結ぶバス路線のこと。

(2) 鉄道の現状

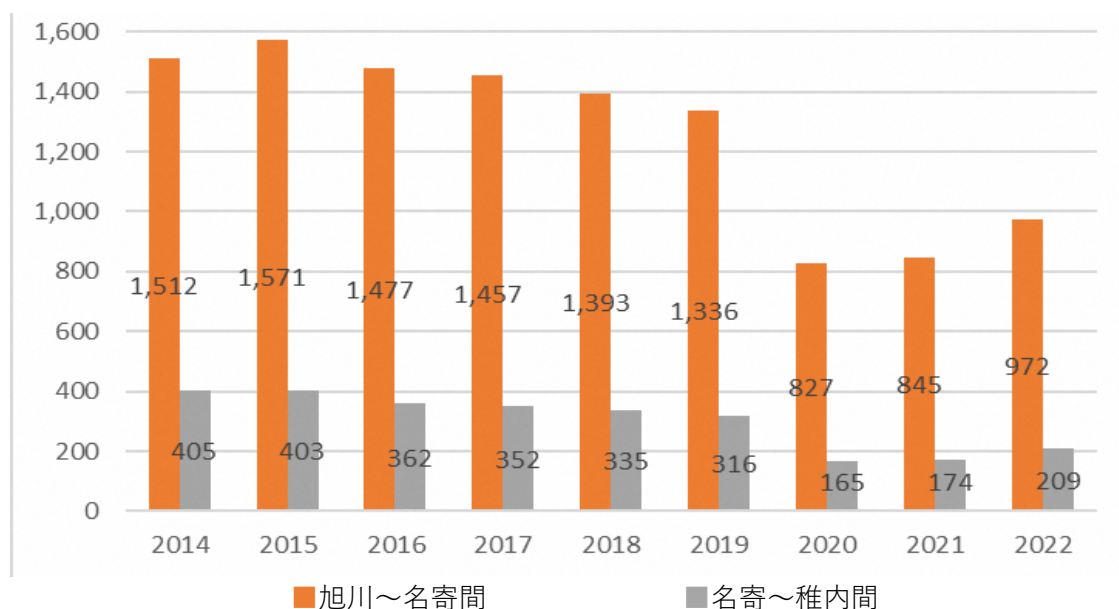
本地域における鉄道は、稚内から旭川まで 259.4 km の区間を宗谷線として運行されており、旭川市や札幌市を結ぶ幹線交通として利用されるとともに、通学・通勤といった生活路線や観光路線として利用されています。

平成 28 年（2016 年）11 月に JR 北海道から示された路線見直しの考え方より、宗谷線は、輸送密度が 200 人以上 2,000 人未満の線区に位置付けられ、特に名寄～稚内間は JR 北海道が単独では維持することが困難な線区として、現在、JR 北海道と沿線自治体等が地域の関係機関が一体となり利用促進に取り組んでいます。

JR 北海道の「線区別収支」によると、宗谷線の輸送密度は平成 27 年度（2015 年度）時点で、旭川一名寄間で 1,571 人、名寄一稚内間は 403 人で逡減し、新型コロナウイルス感染症の拡大による移動制限の影響を大きく受けた令和 2 年度（2020 年度）においては、それぞれ 827 人、165 人と減少しました。「どうみん割」をはじめ、旅行支援策の実施などにより、輸送人員は回復基調にあります。令和 4 年度（2022 年度）時点で、それぞれ 972 人、209 人とどまっています。

運行主体	路線名	区間	便数	所要時間
JR 北海道	宗谷線	札幌一稚内	上 3 本（特急 3 本） 下 3 本（特急 3 本）	5 時間 12 分

(単位：人/キロ/日)



(出典：線区別収支 (JR 北海道))

(<https://www.jrhokkaido.co.jp/corporate/mi/index.html#3>) を加工して作成)

図 3-18 宗谷線 (旭川～稚内間) の輸送密度

(3) 航空路の現状

本地域の航空路は、全日本空輸株式会社が運行する稚内～羽田線が1日1往復（夏期は1日2往復）、稚内～新千歳間が1日2往復、また、利尻～新千歳線が夏期のみ1日1往復、北海道エアシステム株式会社による利尻～丘珠線が1日1往復運航しています。

空港	路線	航空会社	備考
稚内空港	稚内～新千歳	全日本空輸【ANA】	
	稚内～羽田	全日本空輸【ANA】	6～9月のみ2便、その他1便
利尻空港	利尻～丘珠	北海道エアシステム【HAC】	6～9月のみ、金・土・日のみ2便
	利尻～新千歳	全日本空輸【ANA】	6～9月のみ運航
礼文空港	-	-	休止中

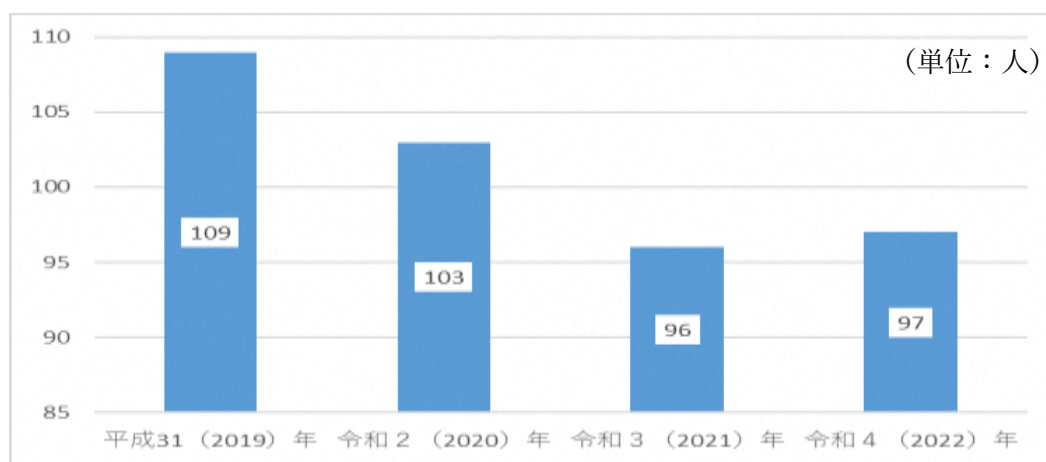
(4) 都市間バスの現状

本地域の都市間バスは、宗谷バス及び北都交通共同運行の特急わっかない号（稚内～札幌）が1日12本、特急えさし号が枝幸～札幌間が1日2本、枝幸～旭川間が1日4本、特急天北号（猿払～旭川）が1日2本、また、沿岸バスによる特急はぼろ号（豊富～幌延～札幌）については1日8本が運行しています。

区分	事業者	路線等	1日あたりの運行本数（上下計）
都市間バス	宗谷バス／北都交通共同運行	特急わっかない号 （稚内～札幌）	12本
	宗谷バス／（※旭川便のうち2便は道北バス）	特急えさし号 （枝幸～札幌）（枝幸～旭川）	2本（札幌） 4本（旭川）
	宗谷バス	特急天北号 （猿払～札幌）	2本
	沿岸バス	特急はぼろ号 （豊富～幌延～札幌）	8本

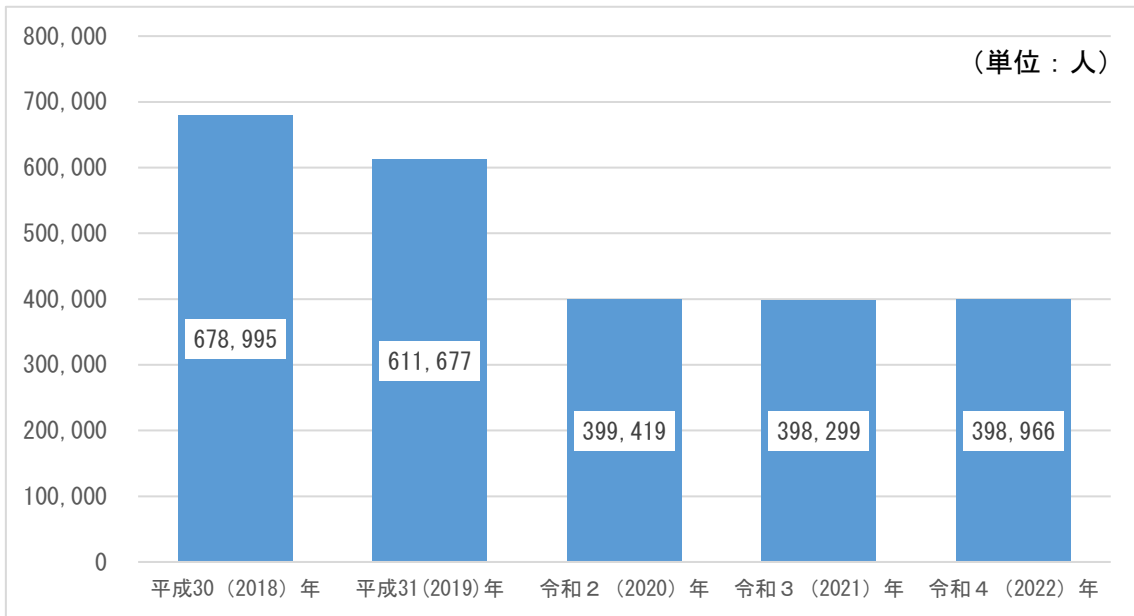
(5) 路線バスの運転者数の推移及び利用者数等

宗谷管内を運行する宗谷バスの運転者数は減少傾向にあり、平均年齢は令和4年度（2022年）において、50歳10ヶ月となっています。



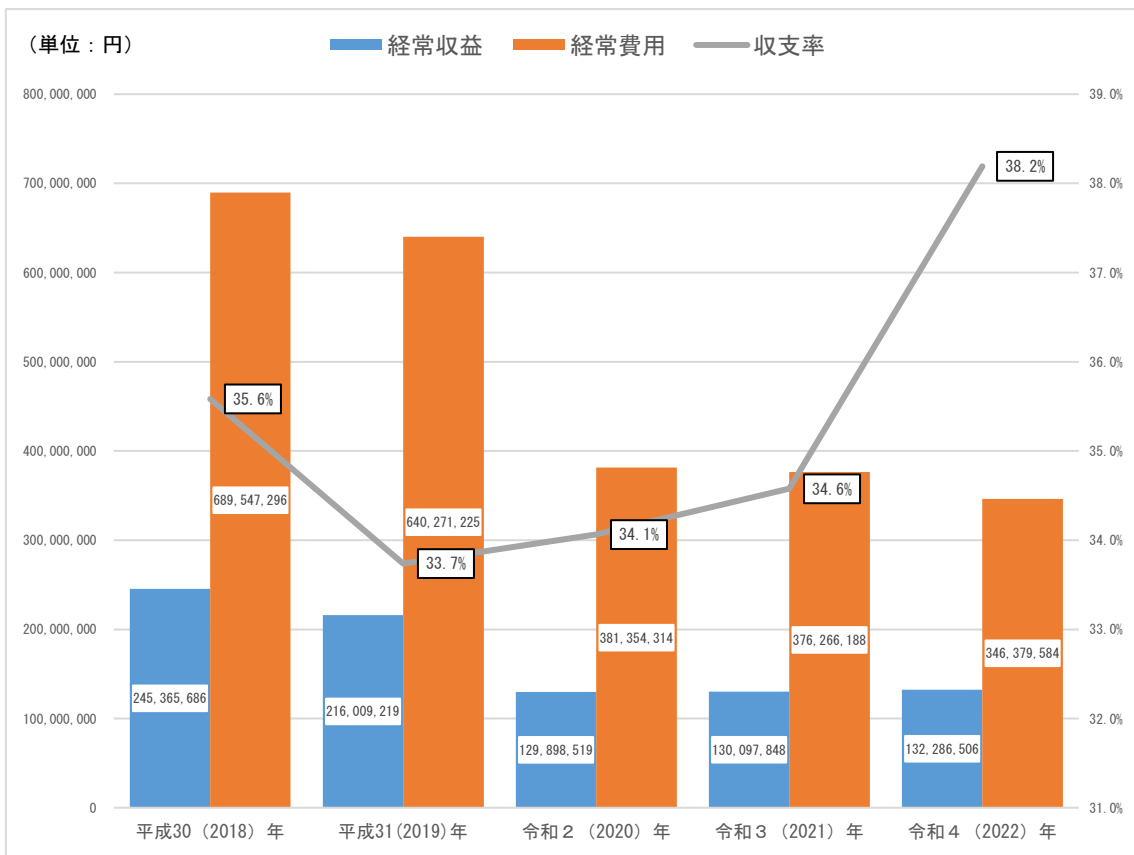
出典 宗谷バス株式会社提供資料

図3-19 本地域の路線バスの運転手数



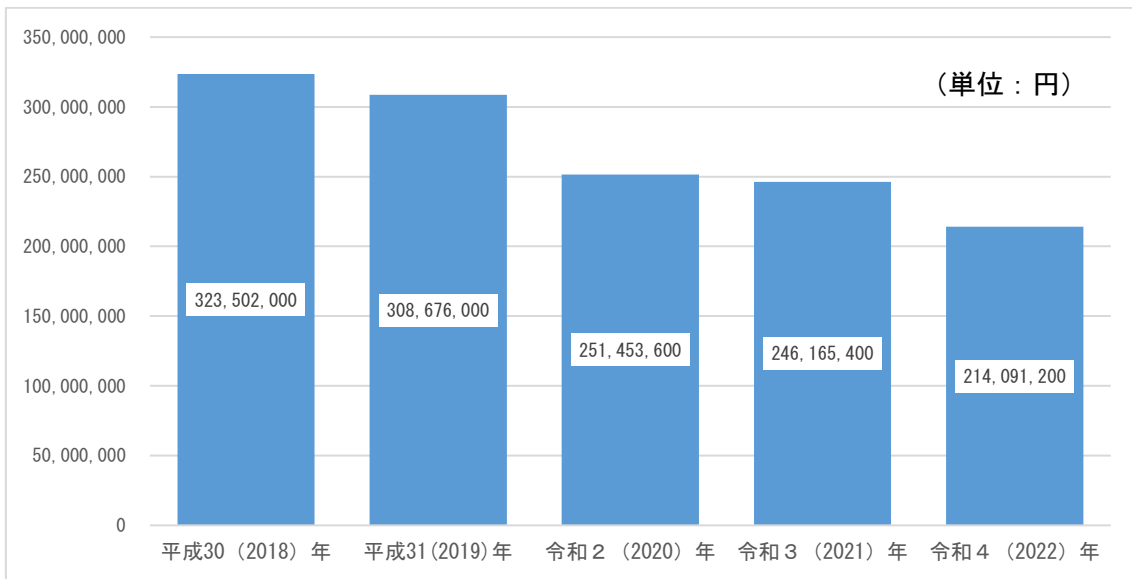
(出典：宗谷バス株式会社・沿岸バス株式会社提供資料)

図 3-20 本地域の路線バスの利用者数



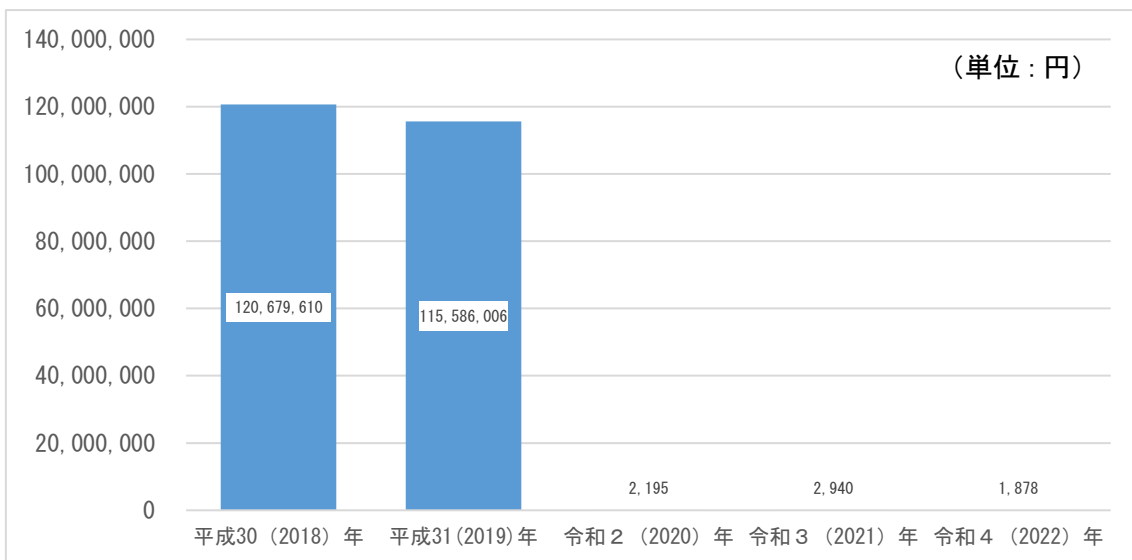
(出典：宗谷バス株式会社・沿岸バス株式会社提供資料)

図 3-21 本地域の路線バスの経常収益・経常費用・収支率



出典 宗谷バス株式会社・沿岸バス株式会社提供資料

図 3-22 本地域の路線バスの補助金額



出典 宗谷バス株式会社・沿岸バス株式会社提供資料

図 3-23 本地域の路線バスの事業者負担額

※図 3-20 から 3-23 までの数値について

- ・平成 30 (2018) 年は、礼文 2、利尻 1、利尻 2、声間 3、坂の下 1、富士見 2、曲淵 1、浜頓別 2、雄武、新天北 1、新天北 2、新天北 3、豊富留萌線、幌延留萌線の合計
- ・平成 31 (2019) 年は、利尻 1、利尻 2、声間 3、坂の下 1、富士見 2、浜頓別 2、雄武、新天北 1、新天北 2、新天北 3、豊富留萌線、幌延留萌線の合計
- ・令和 2 (2020) 年、令和 3 (2021) 年、令和 4 (2022) 年は、声間 3、坂の下 1、富士見 2、天北宗谷岬 1、幌延留萌線の合計

(6) 路線バス（広域交通）の現状

本地域の路線バスは、宗谷バス株式会社と沿岸バス株式会社の2社により運行されています。運行地域は、宗谷バスが稚内市及び猿払村、浜頓別町、枝幸町、礼文町、利尻町、利尻富士町並びにオホーツク管内を結ぶ路線を運行し、沿岸バスが豊富町及び幌延町並びに留萌管内を結ぶ路線を運行しており、運行形態としては、地域間幹線系統2系統をはじめ、広域生活交通路線が3系統、市町村単独補助路線に区分されます。

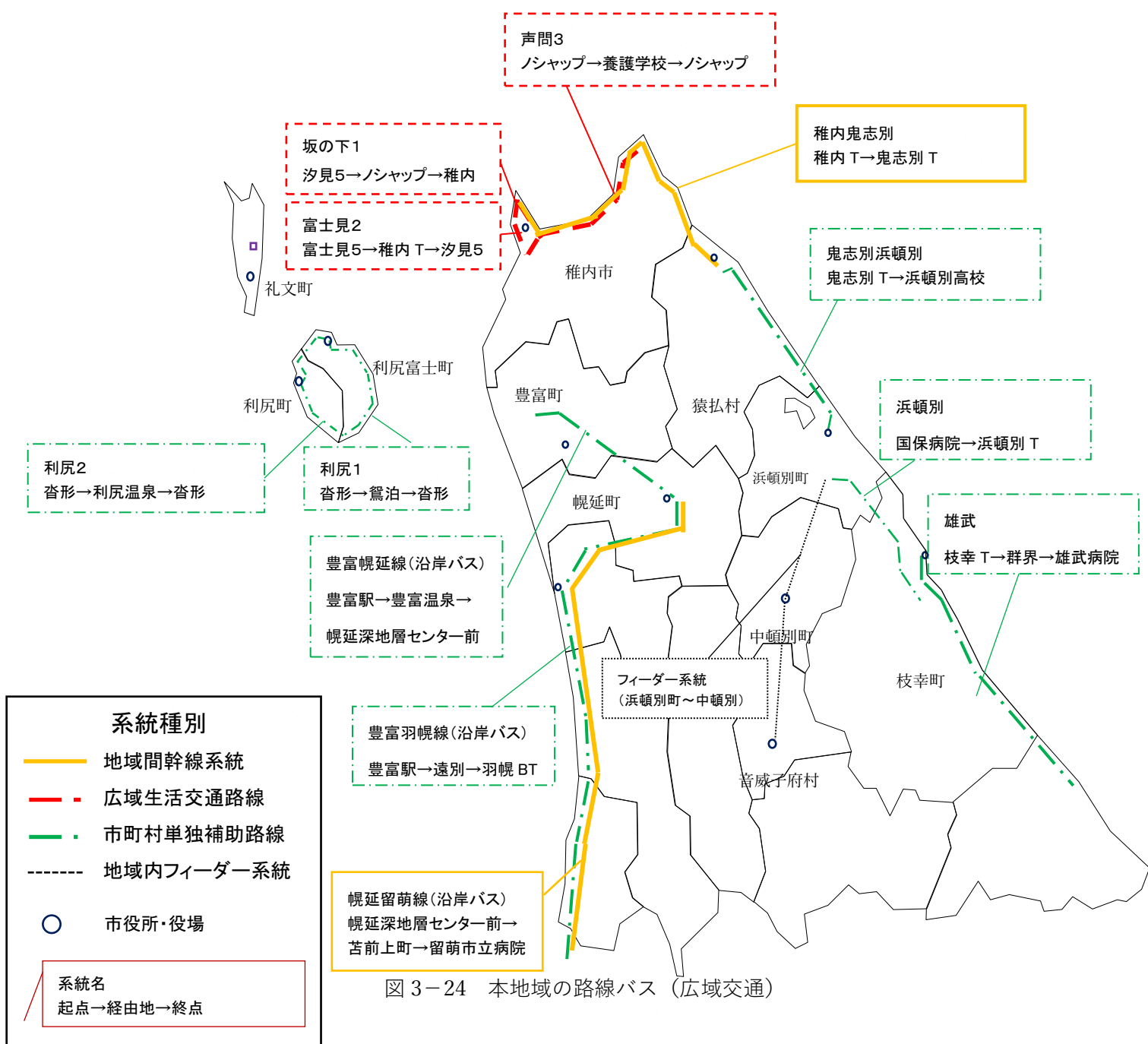


図 3-24 本地域の路線バス（広域交通）